

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

令和3年度1月号

○ 概要

- (1) 令和3年度1月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は6,204億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+4.1%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,910円（伸び率▲2.3%）であった。調剤医療費の内訳は、技術料が1,578億円（伸び率+7.2%）薬剤料が4,614億円（伸び率+3.1%）、薬剤料のうち、後発医薬品が923億円（伸び率▲2.6%）であった。（→P.4）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,884円（伸び率▲3.5%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1種類数1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.81種類（伸び率▲0.6%）、28.1日（伸び率▲1.1%）、74円（伸び率▲1.9%）であった。（→P.8,9）
- (3) 内服薬の薬剤料3,684億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+101億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の667億円（伸び幅+35億円）で、伸び幅が最も高かったのは42 腫瘍用薬の+43億円（総額436億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	3,684億円 (+101億円)	39 その他の代謝性 医薬品(667億円)	21 循環器官用薬 (617億円)	11 中枢神経系用薬 (559億円)
0歳以上 5歳未満	17.0億円 (+1.5億円)	44 アレルギー用薬 (6.4億円)	22 呼吸器官用薬 (2.5億円)	61 抗生物質製剤 (2.0億円)
5歳以上 15歳未満	75.6億円 (+7.3億円)	44 アレルギー用薬 (27.8億円)	11 中枢神経系用薬 (24.6億円)	39 その他の代謝性 医薬品(5.4億円)
15歳以上 65歳未満	1,326億円 (+44億円)	11 中枢神経系用薬 (272億円)	39 その他の代謝性 医薬品(253億円)	21 循環器官用薬 (189億円)
65歳以上 75歳未満	877億円 (+14億円)	39 その他の代謝性 医薬品(190億円)	21 循環器官用薬 (167億円)	42 腫瘍用薬 (140億円)
75歳以上	1,388億円 (+35億円)	21 循環器官用薬 (257億円)	39 その他の代謝性 医薬品(217億円)	11 中枢神経系用薬 (173億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,910円（伸び率▲2.3%）で、最も高かったのは高知県（12,093円（伸び率▲0.8%））、最も低かったのは佐賀県（8,282円（伸び率▲0.8%））であった。
- また、伸び率が最も高かったのは沖縄県（伸び率+1.2%）、最も低かったのは福井県（伸び率▲4.3%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注）}	81.9 %	▲0.1 %
薬剤料ベース	20.0 %	▲1.2 %
後発品調剤率	78.8 %	+0.9 %
（参考）数量ベース（旧指標）	58.9 %	▲0.1 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	▲2.6 %	+7.9 % (0歳以上 5歳未満)	▲7.9 % (75歳以上 80歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	20.0 %	28.4 % (100歳以上)	11.2 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	81.9 %	86.3 % (100歳以上)	75.9 % (10歳以上 15歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 （伸び幅）	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	787 億円 (▲34 億円)	21 循環器官用薬 (233 億円)	11 中枢神経系用薬 (142 億円)	23 消化器官用薬 (94 億円)
0歳以上 5歳未満	5.6 億円 (+0.5 億円)	44 アレルギー用薬 (2.9 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.7 億円)	61 抗生物質製剤 (0.4 億円)
5歳以上 15歳未満	12.5 億円 (▲0.5 億円)	44 アレルギー用薬 (7.4 億円)	11 中枢神経系用薬 (1.8 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.3 億円)
15歳以上 65歳未満	269 億円 (▲4 億円)	21 循環器官用薬 (68 億円)	11 中枢神経系用薬 (60 億円)	44 アレルギー用薬 (33 億円)
65歳以上 75歳未満	187 億円 (▲12 億円)	21 循環器官用薬 (70 億円)	11 中枢神経系用薬 (23 億円)	23 消化器官用薬 (22 億円)
75歳以上	312 億円 (▲18 億円)	21 循環器官用薬 (95 億円)	11 中枢神経系用薬 (57 億円)	23 消化器官用薬 (44 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料	1,474 円	1,906 円(北海道)	1,232 円(佐賀県)
処方箋1枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲8.6%	▲4.1 % (沖縄県)	▲12.6 % (富山県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	81.9 %	89.1 % (沖縄県)	78.2 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	20.0 %	23.4 % (鹿児島県)	17.0 % (京都府)
後発医薬品調剤率	78.8 %	85.0 % (沖縄県)	74.5 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	58.9 %	66.7 % (沖縄県)	54.9 % (東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和3年度1月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。